

# 弘陵造船航空会 第 71 回クラス幹事会議事録

開催日時：平成 29 年 11 月 11 日（土） 15：00～18：00

場 所：横国大 海洋棟 3 階 302 室（製図室横）

司会進行 中島理事

## 1. 開会の挨拶……………角会長

このクラス幹事会では年配の方の出席が多のですが、今回は珠久副会長の声掛けで平成の卒業生太田さんと戸来さんのお二方が参加しています。57号の会報に記事を書いていただいたこともあり、来ていただいています。自由討議で世代間交流の活性化について議論する予定ですがその中で話を伺えると思っています。

来年の総会幹事の昭和 53 年卒の久保田さんにもお越しいただいているので、総会の講演・アトラクションなどアイデアがあればお聞かせいただきたいとおもいます。

## 3. ミニ講演 「日本丸の保存活用について」

講演者：庄司 邦昭氏（東京商船大学 昭和 45 年卒）

講演概要：平成 22 年 7 月に「帆船日本丸保存活用検討委員会」の委員長として会議に参加し、日本丸の価値について確認した。1930 年（昭和 5 年）に建造された総トン数 2284GT の 4 本マストバーク型練習帆船「日本丸」が 2017 年（平成 29 年）に国の重要文化財として指定される運びになった。さらに 2017 年の日本船舶海洋工学会が創立 120 周年記念事業として新たに企画された、「ふね遺産」としても認定される運びとなったことは弘陵造船航空会の一員として大変嬉しく思っている。

講演の動画 <https://youtu.be/XZHNXUPbGew>

## 2. 事務局報告（予定）

・校友会、名教自然会の活動について……………角会長  
10 月 18 日校友会理事会の報告。3 学部の同窓会の集まりであった同窓会連合が廃止され、同窓会活動全体を取り仕切るのは校友会となった。会長は杉田氏、副会長は学長。YNU 基金（学生支援、留学生支援、若手教員の支援）への協力をお願いされた。3 年前から在学学生も校友会会員となったが、校友会費の納入率は全学で 40% 程度。当会も同じレベル。納入率向上の対策として入学金納入時の工夫を次年度の新生から図りたい。名教自然会については報告事項は無し。

同窓会ではないが YOUVEC（横国大のベンチャーキャピタル）という団体から 9 月 20 日、「ライフキャリア」という新たな高齢者の人材活用プロジェクトへの協力を依頼された。

・会員名簿の電子化……………角会長  
名簿を Pdf としてホームページに掲載する方向で検討中。セキュリティ対策として Pdf はダウンロードと印刷は不可とし、会報同様にパスワードを設定する。費用は Pdf 更新の都度 ¥15,000 であり、データベース化する場合の初期費用約 60 万円、年間利用料 20 万円に比べて安価である。現在 3 年に一度の名簿更新は Pdf 化した場合は毎年の更新を考えている。Pdf ファイルについては保存用及び希望者用として 20 部程度をオンデマンドで印刷する予定。

特段の異議が無いようなのでこの方向で進めることとし、名簿の運用面の継続を考慮して 2 年後にホームページへの掲載を予定する。

- ・教室の今とこれから・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・川村教授
  - (1) 4月に学部組織の改組が行われ、理工学部の土木・建築系と環境系、教育人間科学部の中の都市社会共生学科が集まって新しい都市科学部が新設された。それに伴い理工学部では今年度から海洋系が機械材料系と一緒に「機械・材料・海洋系学科」となり、「海洋空間のシステムデザインEP」としてスタートした。
  - (2) 大学院については来年度からの組織改編に対して文科省の認可が下り、現在の工学府システム統合工学専攻から理工学府の「機械・材料・海洋系工学専攻」となり、海洋空間と航空宇宙分野を選択できる。機械工学、材料科学の中にも航空宇宙工学の分野が存在する。
  - (3) 3月15日から流体力学の高木洋平先生が着任された。今年度末で鈴木先生と新井先生が退任される。
  - (4) 海空研で使用していた船舶搭載型航海性能計測コンテナが世界に先駆けたオール・イン・ワン型実船計測システムとして、日本船舶海洋工学会の第1回船遺産（船舶の研究関連設備、機器分野）に認定されました。

- ・会費に関する内規の変更について・・・・・・・・・・・・・・・・中島理事  
 2015年から校友会の設立に伴い在學生も当会の会員とすることになり、入学時に校友会費とともに卒業後10年分に相当する同窓会費（3万円）を納めていただいておりますが、2014年以前入学の學生と比べて負担額が大きくなっていました。会費前納のメリットを明らかにして納入率を上げるため、前納対象期間を卒業後10年間から12年間に変更することとし、今年度第2回役員会で承認を得ました。

- ・奨学金、海外渡航補助について・・・・・・・・・・・・・・・・中島理事  
 奨学金については9月の役員会で了解を得て、1名に15万円を支給済み。  
 海外渡航については上海派遣2週間プログラム参加者7名に各1万円を支給済み。  
 上海派遣3か月プログラム2名（各6万円）と上海交通大学での研究活動の渡航費補助（11万円）については9月の役員会で報告し、渡航実施後の1月に支給予定。

- ・ホームページサーバーの状況について・・・・・・・・・・・・・・・・中島理事  
 現在のホームページサーバー（個人運用で無料）の管理者が亡くなられたとご子息から連絡があり、ドメインを停止したいとの要請がありました。名教自然会から名教自然会のドメイン(www.miharukasu.ynu.ac.jp)に移行してほしいと連絡がありましたが、事務局で検討した結果、民間のサーバーへ移動することとし、10月に移動作業が完了しました。従来のurlでも来年7月まではアクセスできますが、新しいサーバーへの移動の情報が表示されます。今後はサーバー維持費用（約1.6万円/年）が発生します。

#### 4. 自由討議（17：00～18：00）（軽食をとりながら）

##### (1) 世代間の交流の活性化について（珠久副会長作成のメモ）

世代間の意見の交流を深めるという阿部理事の提案に沿い、今回のクラス幹事会には、若手の代表として太田真君（三菱重工）、戸来直樹君（今治造船）に参加を願った。両君は多用中の処快く出席を了承して頂いた。

会議後の懇談で両君から「予想以上に年配の先輩の方々に運営されているんですね」と率直な感想が出た。地方在住で現役世代の彼らは、多くはボランティアに地域で同窓生や実習生との交流を精一杯展開している（他の多くの方の発言にもそのニュアンスは感じられた）。本部中央との結びつきは希薄ではあるが、ある意味健全な同窓会活動が展開されていると考えられる。

総会、交流会、ホームページ整備、会報発行、名簿整備、校友会、大学等との連携等は同窓会役員として重要なミッションであり、これを蔑ろにしての改善は本末転倒であるが、今回の議論を踏まえ留意すべき事項を整理すると以下のとおり。

- 同窓会員を繋ぐ名簿の役割は多くの会員が認める処であり、要望に応じて電子化を進めるにしても、今後もセキュリティを確保した正確で間違いのない、使いやすい名簿を追求する。
- 役員以外の会員が集まる機会である総会、交流会、クラス幹事会は、全員の参加は無理としても、魅力あるテーマの選定に意を用いたい。交流会の担当幹事に若手の年次の参加を考慮する。講演の講師選任は、本学卒業生だけでなく異分野、異業種の人材も検討する(謝礼の制約はあるが)など工夫を致したい。
- 地方であっても職場ごとに工夫して様々な同窓会活動を展開されている。これらは相互に啓発される処大と考えられ、会報等で適宜紹介するようにはどうか(もちろん今回のように交流会やクラス幹事会に出席しての発言が望ましいが)。同様に学生の日々の学業、生活、悩み等の紹介もあっていいと思われる。同窓会は年配の人たちの親睦会というイメージを払拭するためにも、また今後増員を目指すべき学生会員の同窓会に対する意識向上のためにも有効と考えるが。

## (2) その他

・航空宇宙関連が工学部の各学科に分散しているようだがこれは大学の方針か。 学科名をはっきり出して学生の募集をしたほうが良いのではないか。(吉識)

ー対外的にも、学内にもいろいろ事情があり、現在のような状況になっている。(川村)

・今の同窓会は造船中心となっているが、造船と縁のない方には魅力がないのではないか(小林)

ー私は卒業後造船畑を歩んでいないが特に問題は感じていない。会費の納入についても造船関連でないと納入率が低いという訳ではないはずだ。造船の仲間と一緒に学んだということが大切なのではないか(柳田)

・若手には同窓会の生の姿が見えないので、クラス幹事会に若手を招くことが望まれる。(久保田)

ー次回3月のクラス幹事会では交流会の準備・打ち合わせもあるので幹事年に当たる若手も参加していただく予定としている。(中島)

・来年度交流会の講演を予定していた平成1年卒の。斎藤氏がIMO委員会の予定と重なったためお願いできなくなった。(久保田)

ー昭和60年卒のNKの平田氏がリサイクル関連の話を講演してもよいということなので第2候補とする。(珠久)

交流会での講演者は卒業生でなくてもよいが謝礼が少ないのでお願いしづらい。(角)

以上

第 71 回クラス幹事会 出席者リスト 2017/11/11

No.	卒業年度	氏 名	備 考
1	S33	柳田 圭一	
2	S33	吉識 恒夫	
3	S38	小野 龍太	相談役
4	S42	荻原 誠功	
5	S44	平山 次清	相談役
6	S45	庄司 邦昭	
7	S45	珠久 正憲	副会長
8	S46	角 洋一	会長
9	S47	小林 富夫	
10	S48	入江 泰雄	総務担当理事
11	S48	中島 清隆	総務担当理事
12	S51	藤里 宜丸	
13	S53	久保田 秀夫	来年度交流会幹事
14	S55	小岩敏郎	
15	S57	笠原 昭夫	
16	H03	太田 真	
17	H18	戸来 直樹	
18	教室代表理事	川村 恭巳	
		計 18名	

